

木の質感を生かすための商品開発とは? 「LEFの使い方」と



木

を使ったスマホケースやフ
オトパネル、キータグなど
を製造するKIBACOWORKS(株)。

からの製造依頼、OEM製造など
をおこなっている。

2011年に創業し、NTTの代理店、スマホ修理業、スマホケース輸入販売を経て、ついには自社オリジナルの木製スマホケースを製造するまでになった。そのキッカケとなつたのが、「運営していたスマホ修理のショップに、あるお客様が木製スマホケースを持ち込んできました。たまたまレーザー加工機を持つている知り合いがいたので、デザインを刻んで渡したところ、とても喜んでもらえた。そこから木製スマホケースを作りはじめたんです」と同社。

その後、2012年にレーザー加工機を導入、2013年に自社ブランド「kibaco」をスタートさせた。現在では自社ブランド商品を製造し、大手雑貨販売店を中心全国に商品を卸すほか、法人客

に商品を卸すほか、法人客

2011年に創業し、NTTの代理店、スマホ修理業、スマホケース輸入販売を経て、ついには自社オリジナルの木製スマホケースを製造するまでになった。そのキッカケとなつたのが、「運営していたスマホ修理のショップに、あるお客様が木製スマホケースを持ち込んできました。たまたまレーザー加工機を持つている知り合いがいたので、デザインを刻んで渡したところ、とても喜んでもらえた。そこから木製スマホケースを作りはじめたんです」と同社。

その後、2012年にレーザー加工機を導入、2013年に自社ブランド「kibaco」をスタートさせた。現在では自社ブランド商品を製造し、大手雑貨販売店を中心全国に商品を卸すほか、法人客

に商品を卸すほか、法人客

丸2日かけて徹底検証

同社が厚物UVプリンターを導入したのは2015年。ある事件が起つたから。

それまでKIBACOWORKSはUVプリントを外注業者に任せていた。しかし、あるOEM注文が入った時、外注業者から納品された商品のほとんどに「プリント剥がれ」が発生した。

「外注業者にも色々やってもらいましたが、最終的には『できない』と言われた。納期も迫っていたので、『ならば自分たちでやるしか

ない』と考えました」(同社)。

外注先がローランドディジタルの厚物UVプリンターを使っていたことから、プリント剥がれの原因を検証

し、最終的には解決法を見つけ出

すことができた」。

検証に成功した同社は、すぐに



LEF-300とスタッフの大森昂氏。

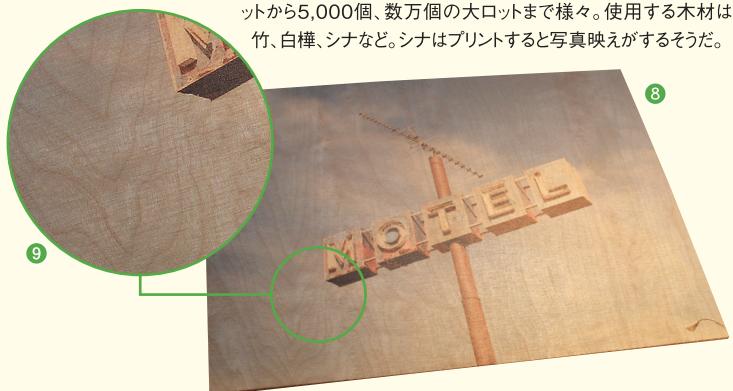
company profile

KIBACOWORKS株式会社
【本社】
〒247-0061
神奈川県鎌倉市台1521-1
中村屋ビル1F
【事業内容】
◎自社ブランド「kibaco」「VEIN」によるスマホケース、フォトパネル、キータグ、キャップの製作、販売
◎法人からの製造依頼、OEM製造

KIBACOWORKSはLEF-300、LEF-20とレーザー加工機2台を所有。①は最初に導入したLEF-20。④⑤同社の人気商品「ウッドiPhoneケース」。ウレタン樹脂が塗装された木に直接UVプリントしている。木目を生かしたデザイン(③)で、とてもカッコイイ仕上がり。スマホケースの周囲の木はパッケージ。ケース側にある音量ボタンなどの穴にパッケージの爪を入れてケースを固定。このまま吊り下げて販売できる。②はパッケージを印刷するための治具。⑦は「ウッドiPhoneケース」パッケージの裏側。レーザーで商品名や製造元情報をマーキングしている。⑥はレーザー加工した「BAMBOO IPHONE CASE」。⑧はウッドディウッドフォトパネル。白樺の合板を使用し、木目を生かした仕上がりに(⑨)。



KIBACOWORKSは自社デザイナー作品の他、国内外のアーティストとコラボした商品もリースしている。「KIBACOWORKS」としての独自性を保つつゝ、外からの感性を取り入れて、全体感を出している(同社)。手掛けるOEMの仕事は、展示会やこれまでの繋がりなどを通じて入ってくることが多い。注文は1個、5個などの小ロットから5,000個、数万個の大ロットまで様々。使用する木材は竹、白樺、シナなど。シナはプリントすると写真映えがするそうだ。



ローランド ディー・ジーの「LEF-20」を導入。納期内に商品を納める」とに成功した。

「LEF-20」という新たな武器を手に入れたKIBACOWORKSは、更なる商品展開をはじめた。

**木の風合いを生かすため
「白プリントしない」**

同社商品の主体は「木材」。それを活用するために、厚物UVプリンターやレーザー加工機を駆使する。例えばスマートフォンには、木にウレタン塗装した板材を使用。それにUVプリントした商品が写

木の魅力を最大限に生かしたい。デザインも、木目が十分生きるようになります。OEM注文等では白をベースにプリントする仕事もありますが、それならシールを貼るのと同じ。弊社ブランドとしては、あくまでも木の風合いを大切にした商品を作りたい」。

同社の仕事は現在、OEM製造が約6割、自社商品製造が約4割を占める。全注文のうち、厚物UVプリンターの利用率は約6割。UVプリント商品で人気なのはスマートフォンケース。価格は3900円で、年間6000個が売れる。昨年12月にリリースされた「ウッドフォトパネル」(写真⑧)はA5サイズが6000円、スクエア150サイズが5000円で、年間約2400個売れるそうだ。

2017年には大量注文に対応するため、「LEF-300」を增设。大ロットの注文も受けられるようになつた。

UVプリンターは効率のいい機械。もつと色んな使い方があると



ローランド ディー・ジーの「LEF-20」を導入。納期内に商品を納める」とに成功した。

「LEF-20」という新たな武器を手に入れたKIBACOWORKSは、更なる商品展開をはじめた。

**木の風合いを生かすため
「白プリントしない」**

真④、⑤、レーザー加工した商品が写真⑥。

木材にUVプリントする場合、一般的には木目が絵柄の邪魔になります。しかし同社はあえて白をプリントしない。

木の魅力を最大限に生かしたい。デザインも、木目が十分生きるようになります。OEM注文等では白をベースにプリントする仕事もありますが、それならシールを貼るのと同じ。弊社ブランドとしては、あくまでも木の風合いを大切にした商品を作りたい」。

UVプリンターを活用するにはどんな材料がいいのか、色々と試しています。機械目線でも自社のテイストは出していきたい。UVプリンターは色々な使い方ができるので、助けられている部分も大きいですね」(同社)。

感じている。素材とマッチすれば、もっと新しい商品が作れるはず(KIBACOWORKS)。同社はこれまで「木」という素材目線で商品開発を進めてきたが、今後は「機械目線」での商品作りに挑む。



□仕様 LEF-300

標準価格：4,500,000円（税別）
寸法：W1,560×D955×H576mm
重量：144kg
設置可能材料：
最大W800×D360×H100mm／最大8kg
印刷範囲：最大W770×D330mm
印刷解像度：最大1440 dpi
使用インク：ECO-UVインク
(C,M,Y,K,GL,WH,PR)

※印刷時に発生する臭気や揮発性物質を除去する専用脱臭装置は別売り。

【問い合わせ】ローランド ディー・ジー(株) コールセンター
0120-808-232

URL www.rolanddg.co.jp/versauv/